

平成27年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」成果報告書

滋賀県

実施テーマ 「初任者研修の抜本的な改革」

調査研究校① 大津市立瀬田北中学校

1-2) 実施体制② (調査研究校ごと)			
調査研究校①の概況	学校名	大津市立 瀬田北中学校 (校長：箱家勝規)	
常勤教員数	49人	うち、学級担任外教員数 (18人)	
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務	人
		※週 日勤務	人
非常勤講師数	3人		
学級数	31学級	うち、特別支援学級数 (5学級)	
初任者配置予定数	3人	うち、学級担任としない予定の初任者数 (人)	
2年目教員配置予定数	2人		
3年目教員配置予定数	2人		
指導教諭 or 研修主任等	<input type="checkbox"/> 指導教諭	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主任等	
指導教員の属性	教務主任		
指導教諭等と指導教員を分けるか	<input type="checkbox"/> 分ける (人)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部分ける (3人)	<input type="checkbox"/> 分けない

調査研究校② 草津市立草津中学校

1-2) 実施体制② (調査研究校ごと)			
調査研究校①の概況	学校名	草津市立 草津中学校 (校長：太田光則)	
常勤教員数	41人	うち、学級担任外教員数 (15人)	
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務	人
		※週 日勤務	人
非常勤講師数	3人		
学級数	26学級	うち、特別支援学級数 (2学級)	
初任者配置予定数	3人	うち、学級担任としない予定の初任者数 (人)	
2年目教員配置予定数	2人		
3年目教員配置予定数	2人		
指導教諭 or 研修主任等	<input type="checkbox"/> 指導教諭	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主任等 (校内研究主任 教科主任)	
指導教員の属性	教務主任		
指導教諭等と指導教員を分けるか	<input type="checkbox"/> 分ける (人)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部分ける (3人)	<input type="checkbox"/> 分けない

調査研究校③ 守山市立守山南中学校

1-2) 実施体制② (調査研究校ごと)			
調査研究校①の概況	学校名 守山市立 守山南中学校 (校長: 狩野秀樹)		
常勤教員数	52人	うち、学級担任外教員数 (16人)	
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務	人
		※週 日勤務	人
非常勤講師数	5人		
学級数	36学級	うち、特別支援学級数 (6学級)	
初任者配置予定数	3人	うち、学級担任としない予定の初任者数 (人)	
2年目教員配置予定数	3人		
3年目教員配置予定数	2人		
指導教諭 or 研修主任等	<input type="checkbox"/> 指導教諭	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主任等 (校内研究主任 教科主任)	
指導教員の属性	主幹教諭		
指導教諭等と指導教員を分けるか	<input type="checkbox"/> 分ける (人)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部分ける (3人)	<input type="checkbox"/> 分けない

調査研究校④ 栗東市立栗東西中学校

調査研究校①の概況			
学校名	栗東市立 栗東西中学校 (校長: 鑑廣 修)		
常勤教員数	49人	うち、学級担任外教員数 (15人)	
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務	人
		※週 日勤務	人
非常勤講師数	7人		
学級数	34学級	うち、特別支援学級数 (4学級)	
初任者配置予定数	3人	うち、学級担任としない予定の初任者数 (人)	
2年目教員配置予定数	3人		
3年目教員配置予定数	2人		
指導教諭 or 研修主任等	<input type="checkbox"/> 指導教諭	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主任等 (校内研究主任 教科主任)	
指導教員の属性	主幹教諭		
指導教諭等と指導教員を分けるか	<input type="checkbox"/> 分ける (人)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部分ける (3人)	<input type="checkbox"/> 分けない

調査研究校⑤ 東近江市立聖徳中学校

1-2) 実施体制② (調査研究校ごと)			
調査研究校①の概況	学校名 東近江市立 聖徳中学校 (校長: 安藤宣保)		
常勤教員数	40人	うち、学級担任外教員数 (15人)	
再任用短時間勤務教員数	0人	※週 時間勤務	人

		※週	日勤務	人
非常勤講師数	5人			
学級数	25学級	うち、特別支援学級数 (4学級)		
初任者配置予定数	3人	うち、学級担任としない予定の初任者数 (人)		
2年目教員配置予定数	3人			
3年目教員配置予定数	2人			
指導教諭 or 研修主任等	<input type="checkbox"/> 指導教諭	<input checked="" type="checkbox"/> 研修主任等 (校内研究主任 教科主任)		
指導教員の属性	教務主任			
指導教諭等と指導教員を分けるか	<input type="checkbox"/> 分ける (人)	<input checked="" type="checkbox"/> 一部分ける (3人)	<input type="checkbox"/> 分けない	

## 1 今年度の実施体制の概要

### (1) 校内で特に重点的に進めたことについて

#### ①大津市立瀬田北中学校

- ・ 道徳教育・人権教育・教育相談・情報教育・特別支援教育コーディネーター等、各教員の担当や得意分野における研修を依頼し、学校全体の協力を得ながら研修を進めた。
- ・ 一般研修において、週2回、3名の初任者が合同で研修できるよう時間割を設定した。  
また、指導教員を中心に、学級経営等に課題がある場合には、すぐに支援できる体制づくりを行った。

#### ②草津市立草津中学校

- ・ 教員としての資質・能力を育むために、基礎的・基本的な研修内容の精選と重点化や初任者への毎月の聞き取り調査の結果を反映した研修の実施と研修内容の調整等、系統的・組織的な取り組みとなるように年間指導計画を作成し、校内研修を推進した。
- ・ 「指導教員連絡会議」を月2回開催し、適時研修計画を検討し柔軟に対応できる指導体制づくりを行った。

#### ③守山市立守山南中学校

- ・ 学校長を中心に2人の教頭の管理の下、加配教員としての指導教員が初任者3人の指導に当たった。初任者の研修が保障されるように時間割などで各学年の協力が得られた。また、初任者の教科指導に各1名の教科指導教諭が当たり、授業研究と、授業参観を週1時間ずつ行った。
- ・ 初任者が毎日実施記録を提出し指導教員がコメントを返したことは、初任者が授業や生徒指導について日々振り返り、自分を客観的に見つめ直す機会となった。また、指導教員は初任者の日々の悩み等を知り、助言できるきっかけになった。

④栗東市立栗東西中学校

- ・ 初任者 3 名全員が、2 年次、3 年次の教師と同学年に所属し、2 年次、3 年次の教員と初任者との交流の場をできるだけ多くもつようにした。研修時間以外でも授業を参観し、学級経営や生徒指導の問題等を気軽に話せる雰囲気づくりを進めた。
- ・ 3 名の内 2 名の初任者については、教科指導教員が副担任も務めた。そのことで、初任者が校外研修などで学校に不在の日があっても、初任者のクラスや生徒の様子がよりの確につかめ、些細な問題も未然に防ぎ、状況に応じた適切な支援に努めた。

⑤東近江市立聖徳中学校

- ・ 年間を通じて、系統的・組織的な研修を計画的に推進するため、校内指導教員と教科指導教員が不在の時でも、管理職（校長、教頭）、教務主任も単独で研修を行うことができるように校内指導体制を見直し、改善した。
- ・ 初任者が教職経験 3 年次までの教員とともに情報交換や教材について交流できる機会をもち、若手教員同士が連携を図りやすい環境づくりに努めた。

(2) 学校全体の取組となるよう工夫したことについて

①大津市立瀬田北中学校

- ・ 道徳教育、人権教育、教育相談、情報教育、特別支援教育コーディネーター等、職員が担当や得意分野における研修を担当し、学校全体で協力しながら研修を進めた。
- ・ 初任者と経験年数の浅い講師がともに研修し、互いに刺激し合い高め合えるように研修できる時間を設定した。

②草津市立草津中学校

- ・ 校内研修での様子、学級経営や生徒指導の状況、月末の聞き取り調査をもとに初任者の現状を的確に把握するよう努めた。また、指導教員どうしで研修項目や研修内容、初任者の指導力の状況を共通理解し、校長、教頭、学年主任、各分掌担当者などが、指導教員と協同して初任者に対する指導や助言を行い、より効果的・効率的な全校共同体制を組み、指導体制の充実を図った。

③守山市立守山南中学校

- ・ 一般研修の講義では指導教員とともに、教頭、教務主任も適宜研修に参加し、より広い視野、経験をもとにした研修を行うよう努めた。また各分掌の長も 1 度ずつ講義を受け持った。

④栗東市立栗東西中学校

- ・初任者3名の合同研修の時間を設け、昨年度以上に多くの教師が講師となり、いろいろな講義を行った。また、2学期の授業公開週間において、先輩や同輩の授業を積極的に参観させ、授業力の向上を図った。

⑤東近江市立聖徳中学校

- ・初任者の3年後の姿を見据えて、計画的に初任者を育成するため、PDCAサイクルを推進した。管理職が初任者や3年次までの教員と面談し、初任者の育成状況を確認・評価しつつ、指導助言を与えた。
- ・校長が学校の核として5年次の教員(30代)を指名し、初任者を含む若手教員の相談事などを5年次の教員に頼るよう若手の教員集団に指導することで、教員集団の交流がスムーズに行えた。

## 2 成果および課題

### (1) 成果について

- ・初任者研修推進委員会を位置づけ、全校体制で初任者研修を実施することで、役割分担を明確にした指導体制を確立するとともに多くの教員が指導にあたることができ、初任者指導に対する職員全体の意識の高まりにつながる。
- ・拠点校方式と比較して、指導教員が同一校に勤務することにより、適宜初任者の現状や課題の把握ができるため、学級経営や生徒指導等、場面に応じてきめ細やかな指導を行うことが可能である。
- ・校内研修において、3名の初任者の合同研修日を設けることにより、初任者同士が意見交換をしたり、他学年の動きを知って次年度以降の見通しをもったりすること等、校内研修の質が高まる。
- ・校内研修を2年次研修、3年次研修、5年経験者研修等の若手教員を対象とした研修と連携し、実施することでOJTの視点からも効果的な研修を実施することが可能である。また、初任者を中心に、授業の進め方や生徒指導等について放課後や空き時間に交流し合うことができ、学校全体の教職員の意識の醸成につながっている。

### (2) 課題について

- ・指導教員が、教科や所属学年の異なる3名の初任者の校内研修全ての指導にあたることから、週時程の設定に困難さを伴う。
- ・教科指導員が学級担任である場合、授業時数の多い教科指導員の指導時間確保が困難である。また、様々な教育課題に対応するための時間を確保するために、校内研修300時間の研修内容の精選、研修時間の短縮等の効率化を図るとともに、夏期

休業中などの長期休業中に研修を行うなど、今まで設けていた制限を弾力的に見直す必要がある。

- ・多様化し複雑化する社会の変容とともに、教員が身に付けるべき知識や指導内容は変化する。これまで行ってきた研修内容を毎年見直すとともに、様々な課題に対応できるようにするための研修を準備し、指導していくことが重要である。